

【評価シート】令和元年度執行分 地方創生推進交付金活用事業実績報告

事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	令和元年度の事業結果及び今後の方針		
										上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績				
1 ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業 (平成29～令和1年度)	H29	広域 連携	<ul style="list-style-type: none"> 大会の企画・運営に対する協力、地元まちづくり団体等との調整 地域おこし協力隊等と連携した地域資源の発掘、磨き上げ 地域の魅力発掘・発信、観光誘客・交流人口の拡大施策の実施 地元でのサイクルイベントの実施、レンタサイクル等の充実 サイクリストをはじめとした観光客等の通年での受入 おもてなしブース設置、観光PR、広報物制作 ボランティアグッズ制作 など 	1,200 (600)	0 (0)	1,200 (600)	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数 《現況値》320万人(H27年度) 	320	万人	410	450	500	500	<p>【事業結果】</p> <p>開催に向け準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、国際自転車連盟から開催中止の指示があり、中止。イベントとしては、フォトラリー(県内各地のスポット写真を応募してもらい、各賞を選ぶ)のみとなった。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>ツール・ド・とちぎとしては、終了だが、今後は、県が主催するサイクルイベントに協力していく。</p>		
										343	338	0				
2 「桑・蚕・繭・紬・和装・和食」地域資源で紡ぐ「日本の伝統を生かした総活躍のまち」づくり事業 (平成29～令和1年度)	H29	単独	<ul style="list-style-type: none"> 桑の木の栽培から商品化までの6次産業化の仕組みや、障がい者等の雇用の創出などの付加価値をつけることにより、さらなる販路の開拓・拡大を図り、自走可能な事業の確立を目指す。また、地域交流イベントの開催により、当事業への理解を広げ、人材の確保につなげるとともに、商品のPR及び販売の拡大を図る。 耕作放棄地等を活用した桑の木、実・葉等確保対策事業 新商品企画・開発、販路開拓支援事業 福祉施設との連携事業 交流人口拡大事業 「和装・和食文化サミット2019」開催 桑摘み体験等の地域交流イベント開催 	20,000 (10,000)	18,849 (9,424)	1,151 (576)	<ul style="list-style-type: none"> 商品の総売上高 	2,620	千円	3,620	4,800	6,000	6,000	<p>【事業結果】</p> <p>原料となる桑の木の増殖に取り組み1400本を植栽、桑の実・桑の葉を活用し新たな需要に対応した商品開発により34品目の商品開発を行った。</p> <p>また、料理の神様を祀る「高橋神社」において、令和元年5月に開催した「日本 和食(日本料理)サミット2019in小山」では、約5,000人の来場者があり、本事業のPR、商品紹介・販路拡大及び交流人口の増加による地元の活性化を図ることができた。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>事業主体の自走を支援し、桑・絹地区の地域資源である桑加工商品や本場結城紬の全国発信、販路拡大等により地域経済の活性化を図る。</p>		
										4,055	6,563	7,519				
										0	6	12			12	
										13	12	13				
										0	0.6	1.3			2.0	2
0.0	0.0	2.0														
16	16	23	30	30												
22	32	34														
3 小山市のブランドの「はとむぎ」の健康機能を活かした健康長寿のまちづくり事業 (平成30～令和2年度)	H30	単独	<ul style="list-style-type: none"> はとむぎの効能実証研究の成果を踏まえ、機能性表示食品としての登録により健康に良いという付加価値をつけてはとむぎの魅力を外内へのPRを継続する。 また、新メニューの開発に取り組むとともに、専門的な販売施設等を整備することにより、さらに効果的なPRを行い、消費拡大、ブランド力の強化を図る。 料理教室の開催 フェア・講演会等の普及啓発事業 はとむぎメニュー開発事業 はとむぎ販売促進支援 機能性表示食品としての登録 	39,150 (19,575)	33,629 (16,815)	5,521 (2,760)	<ul style="list-style-type: none"> はとむぎ作付面積の拡大 	80	ha	80	85	90	90	<p>【事業結果】</p> <p>①「小山のはとむぎ」の周知啓発を目的としたDVDを作成し、市内外の方々に向けて発信した。</p> <p>②はとむぎを使った新メニューや新商品の開発を支援するため、取り組む事業者、団体等を対象に、はとむぎの配布を行った。</p> <p>③令和2年1月には「はとむぎフェスタ」を開催し、はとむぎの調理方法の普及やはとむぎ新商品の販売を行い、はとむぎの魅力を広げ発信した。(来場者約1,000人)</p> <p>【今後の方針】</p> <p>①飲食店・事業者と協働で新メニューの開発を行うとともに、機能性表示食品取得に向け、追加調査やマーケティング戦略の立案を実施し、更なる魅力発信、販売拡大を図る。</p>		
										80	80					
										0	500	1,500			4,500	4,500
										0	4,905					
										1	4	10			30	30
1	8															
0	4	10	20	20												
0	13															

事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	令和元年度の事業結果及び今後の方針	
										上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績			
4	地域の活力創出・経済活性化に資する公共交通利用促進プロジェクト (平成30～令和2年度)	H30	単独	①渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画(エコ・アグリツーリズム)推進のため新路線試験運行 ②おーバスのICT化事業:新路線含むバス10台の運行状況及び乗降客数調査、データ解析 ③モビリティマネジメント事業の実施:アンケート実施による検証評価 ・新路線(間々田-野木-渡良瀬遊水地路線/栃木-渡良瀬遊水地路線)実験運行及びエコ・アグリツアー便運行 ・バス運行状況調査及びデータ解析 ・乗降状況調査及びデータ解析 ・アンケート調査結果を踏まえた路線の見直し改善 ・車両リース(1台)	24,695 (12,347)	21,228 (10,614)	3,467 (1,733)	コミュニティバス(間々田-野木-渡良瀬遊水地路線)利用者数	0	人	0	18,000	20,000	20,000	【事業結果】 ①広域公営バス「渡良瀬ライン」の継続実証運行を実施した。 ②バスロケーションシステムについては、市民に対しバスの運行位置の情報提供を開始するとともに、利用状況を分析し新市民病院線のダイヤ改正に反映させ、利便性を向上させた。 ③モビリティ・マネジメントについては、学校MM、エコ通勤MMを行った結果、路線バスの利用者は前年比約1万5千人増の728,807人、サポーター・バス停オーナーは基準年比28万5千円増の138万5千円となった。観光客向けMMについては渡良瀬遊水地の「ヨシ焼き」来訪を準備したが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 【今後の方針】 ①「渡良瀬ライン」については、令和元年度運行に当たっての課題を解決するとともにPRIによる利用者増を目指す。 ②バスロケーションシステムについては運行状況及び乗降状況のデータを蓄積し、データに基づいた路線ダイヤ改正を実施し、更なる利便性向上・利用者増を目指す。 ③モビリティ・マネジメントについては、学校MM、エコ通勤MM、更なるオーナー・サポーター獲得等への取組みを実施する。
								コミュニティバスを利用した渡良瀬遊水地への来場者数	0	人	0	500	600		
								間々田-野木-渡良瀬遊水地路線運行収入	0	千円	0	1,800	2,000	2,000	
								バス停オーナー・サポーター等協賛金の額	0	千円	89	1,012	460		
5	地域の未来を創る結城紬産業振興プロジェクト (令和1～令和3年度)	R1	広域連携	①原料生産における新たな担い手の養成 ②小山産繭による新商品のデザイン検討と製作着手 ③新たな流通形態の試行による販路開拓 ④事業継続・事業承継に向けた積極的な取組の促進 ⑤結城紬の伝統技術・産地の魅力発信や観光誘客のためのコンテンツ整備 ・製織等の後継者への実務研修、産地への定着促進 ・体験会・講習会、スキルアップ研修を開催 ・新品種繭の研究開発等 ・新たな流通形態による求評宣伝会への助成 ・モデル的な取組を実証する生産者を支援 ・結城紬の原料生産・各製作工程や産地の歴史等の展示パネルを設置	9,868 (4,934)	6,899 (3,450)	2,969 (1,484)	展示販売会における販売額	27,000	千円	30,000	34,000	42,000	42,000	【事業結果】 ①KPIを上回る数の担い手を育成することができた(栃木県30、小山市42、計72名増)。 ②新商品については、小山産繭をつかい、原材料を制作した。 ③展示販売会については、栃木県が中心となり、大阪にて実施した。新型コロナウイルスの影響もあり、目標達成が危ぶまれたが、関西方面でのきもの需要は関東より高く、あらたな販路開拓につながった。 ④栃木県にて、産地内での調整を行った。 ⑤桑・蚕・繭・真綿かけ・糸つむぎのさとの展示物を充実させた。 【今後の方針】 ①栃木県では細織物技術伝習生の育成を、小山市では原材料部門の後継者育成を引き続き行う。 ②小山産繭を使い、新商品として栃木県3商品、小山市2商品を目標に実施する。 ③新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、より効果的な実施方法等を検討し行う。 ④引き続き、産地内の調整を行う。 ⑤レンタサイクルの導入等を実施する。
								本事業を通した新商品開発数	0	品目	0	5	12		
								本場結城紬の検査反数	1,153	反	1,153	1,164	1,176	1,176	
								本事業を通した結城紬生産を担う人材の育成数	37	人	102	187	302		
6	料理の祖神を祀る高椅神社を核とした、料理人が集い、つながり、広がる「料理人の聖地」創出事業 (令和1～令和3年度)	R1	単独	事業の核となるコンソーシアムを設立して活動を開始する他、地域の誇りを再構築するための調査研究、学習を実施するとともに、高椅神社及び料理の神様が祀られていることの認知の向上の仕掛け作り、キッチンスタジオ及び農泊の運営面も含めた基本設計等を行う。 ・地域の誇りを再構築する調査研究 ・コンソーシアム設立及び運営 ・「料理人の聖地」たり得ることの認知を高めるための取組み ・農泊等宿泊体制整備事業	36,000 (18,000)	36,000 (18,000)	0 (0)	プロジェクト参加事業者数	0	件	20	40	100	100	【事業結果】 コンソーシアムを設立し、地域の誇りを再構築するための調査研究、料理の祖神が祀られている高椅神社の認知向上のための仕掛け作り、キッチンスタジオの整備及び農泊の運営体制等についての調査研究を行った。 【今後の方針】 料理の祖神「高椅神社」の認知度を高め、食に関するイベント等の開催を通して、料理人や、食品関連事業者、農業生産者等の誘客にむけた分析を行い、事業スキームに反映させる。
								料理イベント一般来訪者数	0	人	3,000	5,000	10,000		
								高椅神社のサイトアクセス数	0	件	0	4,000	20,000	20,000	
								農泊の利用者数	0	人	0	0	60		

事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	令和元年度の事業結果及び今後の方針
										上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績		
7 空き家等を活用した二地 域居住促進事業 (令和1~令和3年度)	R1	単独	<p>首都圏居住者で二地域居住に興味がある人のニーズを把握するために、アンケート調査を行い、分析することで、ニーズに沿った物件を確保し、居住先として選ばれるための戦略を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体統計データ分析 ・首都圏在住者に対する小山市への二地域居住意識調査 ・ニーズに沿った空き家の改修計画策定 	24,695 (12,347)	21,228 (10,614)	3,467 (1,733)	空き家が解消された件数	0	件	5 0	15	30	30	<p>【事業結果】</p> <p>①全国の先進事例を調査した結果、今後、小山市の特色に落とし込んだ方針を打ち出すための参考となった。</p> <p>②ニーズを把握するために、首都圏在住・在職者および市内在住・在職者を対象に意識調査を行ったところ、計297件の回答を得られた。調査結果により、二地域居住の需要や探している・欲している空き家の形態を知ることができた。ニーズの把握とともに、小山市の抱える課題も発見できた。</p> <p>③意識調査実施の過程の中で、すでに二地域居住を行っている方などと繋がり、実態を知ることができた。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>①意識調査の結果をふまえた実現可能性の高い戦略で、二地域居住に求められる空き家の抽出・改修を進めていく。</p>
							人口社会動態転入超過者数	490	人	0 0	510	530	530	
							サイトの閲覧数	0	件	0 0	5,000	10,000	10,000	
							空家を活用した二拠点居住世帯数	0	件	0 0	2	5	5	
8 小山市渡良瀬遊水地エ コ・アグリツーリズム推進 拠点整備事業 (効果促進事業) (令和1~令和3年度)	R1	単独	<p>・治水、環境、農業、観光等、遊水地関係の各団体や地域関係者間の調整・合意形成を図り、交流人口の拡大と湿地環境の保全の両立を図るとともに、地域活性化につなげる。</p> <p>・農産品や特産品の品質・付加価値の向上に努めるとともに、新たな販路として本施設を最大限活用し、地域ブランド力の向上や観光客等の満足度の向上を図る。</p> <p>・周辺自治体と連携した交通手段を確保することで、さらなる観光誘客の促進・交流人口の拡大を図る。また、渡良瀬遊水地の保全・再生活動に取り組みることにより、貴重な自然環境の保全を図る。</p> <p>・自然観察・体験プログラムや野菜等の収穫体験等エコツーリズムとアグリツーリズムを通して、交流人口の拡大に取り組み、持続的な地域活性化の仕組みを構築する。</p>	5,440 (2,720)	3,390 (1,695)	2,050 (1,025)	施設売上げ額	0	件	0 0	1,200	2,500	6,000	<p>【事業結果】</p> <p>①R1年度に渡良瀬遊水地コウノトリ交流館を地方創生拠点整備交付金にて整備した。</p> <p>②その際、効果促進事業として、施設で使用する、情報発信用備品、簡易カフェ用備品購入した。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>R2年度5月にオープン予定であり、オープン後、有効活用し渡良瀬遊水地を生かした周辺地域の活性化を図る。</p>
							施設利用者	0	人	0 0	1,200	2,500	6,000	
							体験型イベント参加者	0	件	0 0	300	600	1,200	

※A…交付金申請時の決定額

※B…事業終了後の精算額

※A.B.Cについては千円単位